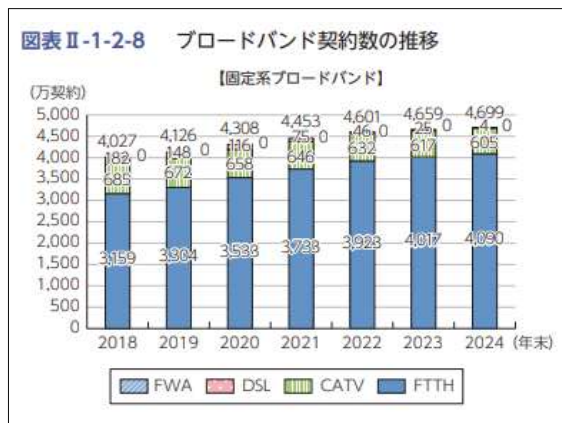


図表1-2-5 ▶日本の光ファイバー整備率



出所：総務省「令和7年版 情報通信白書」(2025年7月8日)

図表1-2-6 ▶ブロードバンド契約数の推移



出所：総務省「令和7年版 情報通信白書」(2025年7月8日)

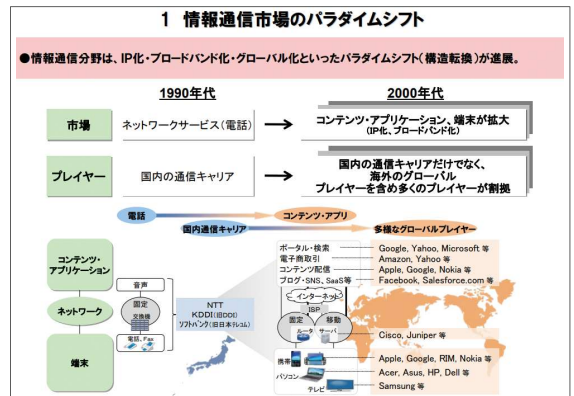
その第一弾が、2010年11月2日、NTT東西の連名で発表された「PSTNのマイグレーションについて—概括的展望—」である。

この概括的展望は、情報通信分野においてIP化、ブロードバンド化、グローバル化というパラダイムシフト(構造転換)が進展する中(図表1-2-7)、ユーザーや接続事業者を含む関係者に対して、今後の長期的な計画を提示して、円滑なマイグレーションに向けて理解と協力を呼び掛けるものであった。そのポイントは以下のとおりである。

- ・IP系サービスへの需要のシフト及びPSTN交換機の耐用年数を考慮し、約10年後の2020年頃からPSTNからIP網へのマイグレーションを開始し、2025年頃に完了を予定する。

図表1-2-7 ▶

通信市場のパラダイムシフト(1990年代⇒2000年代)



出所：NTT東日本、NTT西日本「PSTNのマイグレーションについて—概括的展望—」(2010年11月2日)

- ・PSTNからIP網へのマイグレーションにあたり、一部提供を終了するサービスがあるため、対象サービスを提示して、利用者に対して十分な周知期間を取ったうえで対応を行う。
 - ・現在PSTN交換機を介して接続しているIP電話のIP網同士の接続の実現等に向け、多数の関係事業者間で意識合わせを行う。
 - ・今後とも引き続きIPベースのサービスを拡充し、お客さまの利便性向上に努めることにより、IP・ブロードバンドの普及拡大を図っていく。
- また、この「概括的展望」では、NTTが世界に先駆けて光ブロードバンドを展開していることから(図表1-2-8)、サービスの創造やICTの利活用等により需要を喚起し、光の普及を進めることでマイグレーションを進めることや、メタ